



1. 11月は児童虐待防止推進月間です。

厚生労働省では、毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と定め、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう、期間中に児童虐待防止のための広報・啓発活動など種々な取組を集中的に実施しています。厚生労働省のリーフレットによると、脳画像の研究により、子ども時代に辛い体験をした人は、脳に様々な変化を生じていることが報告されており、体罰・暴言は子どもの脳の発達に深刻な影響を及ぼすことがあるとのこと。親は「愛の鞭」のつもりだったとしても、子どもには目に見えない大きな影響を与えているかも知れません。

親自身が疲れていたり、もともと抱えているストレスが大きいと、子どものちょっとした行動でイライラが爆発してしまうことがあります。イライラが爆発する前に、クールダウンするための自分なりの方法を見つけておくことが大切とのこと。その方法として、①深呼吸する ②風にあたる ③数を数える ④お茶を飲む などの方法があるそうです。

2. 人権講演会を実施します。

11月1日(水)、中尾 勇守 さんをお招きし、人権講演会を開催します。テーマは、「LGBTQ」で、めあては、「性の多様性について正しく理解し、互いを認め合える仲間づくりに繋げていく」です。

講師の中尾 勇守 さんは、小学校から大学卒業までバスケットボールに打ち込み、大学卒業後、中高一貫校で保健体育教師として3年間、小学校2校で学童保育指導員を経験されました。2015年からトランスジェンダー当事者として、教育現場を中心に人権教育講師として活動を開始されたそうです。座右の銘は、「悲劇とは、悪人の圧制や残酷さではなく、善人の沈黙である。- キング牧師」だそうです。

子どもたちにとって、今回の講演会により、改めて「LGBTQ」について考え、理解を深めるきっかけになればと思います。

3. 人との関係を大切に

最近読んだ本で、とても印象的のものがありません。それは、児童精神科医・医学博士である夏苺郁子さんの著書「人は、人を浴びて人になる」です。夏苺さんは、ご自身が生きていくことに疲れ、二度の自殺未遂を経験されましたが、いろいろな機会に、いろいろな人と出会うことで大切なことを学び、心の病を回復できたそうです。ある患者さんから「夏苺さんの人生で、一番助けになったのは何ですか」と問われ、夏苺さんは、「それは、薬でも医者でもありません。人との関係です。」と答えられたそうです。人から受けた悲しみや人との関係で生まれた憎しみや虚無感は、やはり「人との関係」により修復されるのではないかとおっしゃっています。

新型コロナウイルスが感染症法上の5類相当に移行され、これまでオンラインや書面等で開催されていた会議も参加型に戻りつつあります。直接対面することで、相手の表情のみならず、雰囲気やしぐさも相まってより多くの情報を取得しやすくなり、参加者同士の意思疎通が促進されます。

「学校は、人が集まり、共に成長していく場」です。子どもたちは、リアル開催の文化祭や体育祭などの取組を通して、学級や学年で互いに良好な関係を構築することができました。これからも子どもたちには、たくさんの人と出会って成長して欲しいと思います。